

令和3年度 東京都立青峰学園 学校経営計画

I 目指す学校

青峰学園は、青梅市・奥多摩町を通学区とする肢体不自由教育部門小学部・中学部・高等部普通科と、東京都全域から出願を受け付ける知的障害教育部門高等部就業技術科の2教育部門を併置する特別支援学校であり、開校13年目を迎える。学習指導要領の改訂を受け、これまでに築いてきた教育内容を基盤に、指導内容、教育活動、組織体制の見直しを進め、業務の精選、効率化を推進し、障害のある児童・生徒の自立と社会参加を進めていく。

本校では、児童・生徒一人一人の発達段階や障害特性に応じた個別指導計画を作成し、きめ細かな指導を行い、主体的・対話的で深い学びの中で、自立に向けての知識、技能、態度を養い自ら行動しようとする力を育成する。そのため教職員は、常に人権感覚を磨き、優しさと専門性に裏付けされた系統的で特色ある教育活動を展開するとともに、体罰の根絶、いじめ防止、個人情報セキュリティ保護など危機管理の徹底と迅速な対応を図る。さらに、感染症予防に関する指導、感染症予防対策の徹底をとおして、安心して安全な学校づくりに努める。また、インクルーシブ教育システムの構築を推進し、新たな特別支援教育の発展を目指すセンター校として、近隣の保育所、幼稚園、小学校、中学校、都立高等学校等への支援や関係諸機関との連携強化を図っていく。

■ 学校教育目標

健康や体力、確かな学力、豊かな人間性など生きる力を養い、地域社会の一員として自立し、主体的に社会参加するとともに、生涯にわたって心豊かに生きていく人間を育成する。

- ア 健康で、豊かな心と丈夫な体を養う。
- イ 自ら学び、自ら考え、積極的に行動しようとする意欲や態度を育てる。
- ウ 障害に基づく種々の困難を克服し、自立と社会参加に必要な知識・技能・態度を養う。
- エ 豊かな情操を育み、社会性や規範意識を育てる。
- オ 社会の一員としての自覚を育て、進んで自立・社会参加する意欲や態度を養う。

■ 肢体不自由教育部門 教育目標

児童・生徒一人一人の人権を尊重し、障害による学習上または生活上の困難等に応じた専門的な教育を外部専門家等とともにを行う。健康・安全・安心な学校で、児童・生徒一人一人の個性を伸ばし、確かな学力、健康や体力、そして豊かな人間性など生きる力を養い、地域社会の一員として自立し、主体的に社会参加するとともに、生涯にわたって心豊かに生きていく人材を育成する。

■ 知的障害教育部門 教育目標

生徒一人一人の人権を尊重し、将来の職業的自立を目指した教育を推進し、企業就労に必要な基本的な資質・能力を養うことにより、知的障害が軽い生徒の自己実現および自立と社会参加を促進し、「社会に貢献できる人材」を育成する。そして、「生徒全員の企業就労」の実現を目指す。

上記の本校教育目標の達成を目指し、東京都特別支援教育推進計画の趣旨に沿いながら、児童・生徒が、自己の価値についての意識を十分に高められるようにすることを基盤として、自尊感情・自己肯定感を育む人権教育をすべての教育活動の根底に据え、児童・生徒のキャリア発達を通して人間的な成長の支援を行い、個々の多様性が尊重される共生社会の実現に貢献する学校づくりに努める。

II 中期的目標と方策

中期的目標	方策
新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、安心安全な学校づくりを推進する。	密閉・密集・密接の排除、感染症予防指導の徹底、オンラインを指導・業務に最大限活用する。
ICT機器を活用した学習活動を推進し、高い教育的効果を実現する。	GIGAスクール・スマートスクール資源を最大限に活用した先進的な学習活動を推進する。
情報モラル教育を推進し、情報リテラシーを高めていく。	SNSの適切な利用について、SNS企業等との連携を図るとともに、家庭との連携を強化する。
個別指導計画を活用し、質の高いきめ細かな指導を推進する。	個別指導計画のさらなる活用に向けて、様式改善やデジタル化に継続的に取り組む。
パソコン検定各種、電卓検定、漢字検定、英語検定等、各種の資格取得を推進する。	将来の社会参加に向け、校内独自の表彰規定も設け、各種資格の取得を推奨する。
両部門が「一体」となったキャリア教育の充実・推進を図る。	進路指導に関する指導内容や、就労に関する情報の両部門間での共有化をさらに推進する。
地域の学校等と連携し、特別支援教育のセンター校として、専門性の向上に寄与する。	地域の学校等の専門性そのものを高めることに注力するとともに、ネットワークの強化に努める。
体罰の根絶、いじめ防止、個人情報セキュリティ遵守等危機管理の徹底を図る。	管理職による研修、教職員全員の個別面接を定期的に行い、教職員の遵守意識の徹底を図る。
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、教育活動全体を通して指導し、将来的なレガシー構築を図る。	大会の1年延期を受け、さらなる指導の充実、及び大会以降のレガシー構築に向けて、引き続き準備の推進を図る。
透明性と客観性のある学校経営を推進するとともに、オンラインを最大限活用し、効率化を図る。	働き方の多様性に対応したオンライン活用を推進するとともに教職員の時間管理スキルを高める。
経営企画室と学校経営支援センター支所との連携を円滑にし、計画的、効率的な予算執行を行う。	年間計画に基づいた予算執行を迅速に行うとともに、定期的に執行状況を確認する。

III 今年度の重点目標と数値目標

(1) 学習指導

- ① 自立と社会参加に向け、キャリア教育を推進し、児童・生徒の人権を尊重した指導を実践する。
- ② GIGAスクール、スマートスクールによるオンライン指導など、先進的なICT教育に取り組む。
- ③ パソコン検定、電卓検定、漢字検定、英語検定等、各種資格取得を推奨し、成績優秀者は校内独自規定により表彰する。
- ④ 個別指導計画、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）を保護者や関係機関等と連携して作成する。目標設定時に本人・保護者とオンライン等も活用し、十分に意見交換を行う。
- ⑤ 生徒及び保護者等による授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立てる。
- ⑥ 市民講師、外部専門家などの人材を積極的に活用し、専門性の高い授業を展開する。

- 数値目標 個人端末やTEAMSを活用した指導 1人30回以上
- 数値目標 各種資格取得者数（延べ） 200名以上
- 数値目標 学校評価：授業満足度（生徒） 80%以上

(2) 生活指導

- ① 新型コロナウイルス感染症予防に関する日常生活指導を徹底する。
- ② 本校が設定した生活指導検定を指標に、生徒が社会人としての意識を醸成できるようにする。
- ③ いじめ調査を定期的実施し、いじめの芽を未然に摘み取る指導を徹底する。
- ④ 実際の災害に即した避難訓練を設定し、児童・生徒の安全の向上を図る。

- ⑤ 不審者対策及びセーフティ教室を充実させ、安全対策の確立を図る。
- ⑥ 自転車安全教室を青梅市交通公園の協力を得て行うとともに、自転車通学検定を実施する。
- ⑦ SNS 青峰ルールに基づき、家庭でのルールを作成するよう、保護者に丁寧に働きかける。

■ 数値目標	いじめ件数	0件
■ 数値目標	生活指導検定各学年合格率	80%以上
■ 数値目標	学校評価：生活指導項目の満足度	80%以上
■ 数値目標	SNS 家庭ルールの作成協力	70%以上

(3) 進路指導

- ① 東京都教育委員会、青梅公共職業安定所や地域の企業等との連携を強め、インターンシップや現場実習先、就職先の開拓を進める。
- ② 新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、生徒の実態に応じた現場実習を行い、体験を通して得た課題を学校で学び直すことを繰り返し、適切な進路先の自己決定まで丁寧な指導を行う。
- ③ 卒業生の職場定着のため、就労支援機関等と連携し、アフターケアを実施していく。

■ 数値目標	インターンシップ・現場実習実施事業所	150社以上確保
■ 数値目標	高等部卒業後の進路先決定	100%

(4) 特別活動・健康教育・防災教育・国際理解教育

- ① 教育活動全般にわたり、新型コロナウイルス感染症予防の徹底を図る。
- ② 教育活動全般にわたり、体罰が行われていないか調査を定期的に行う。
- ③ 部活動等において適切な指導が行われているか、管理職が巡視し体罰防止を徹底する。
- ④ 児童・生徒それぞれのアレルギーや発作、既往症、服薬、医療的ケア等について、担任や学年だけでなく、管理職、保健室や保健給食部担当など広く情報共有し、事故の未然防止を徹底する。
- ⑤ 緊急対応及び防災マニュアルを活用し、迅速かつ適切に組織的な対応をする。
- ⑥ 災害時二次避難所（福祉避難所）として青梅市、警察、消防及び地元自治会と緊密な連携の下、被災時を想定した備蓄品等の物品整備を図る。
- ⑦ 一泊二日の宿泊防災訓練を実施し、参加生徒の「自助・共助」の精神の涵養を図るとともに、全校規模での災害に備えた具体的な対策を作成する。
- ⑧ SDGs に向けた環境教育として、節電やリサイクル等に重点をおいた教育活動を展開する。
- ⑨ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、スポーツや文化活動を通して国際感覚を磨き、大会終了後のレガシーとして継続していく。

■ 数値目標	体罰事故	0件
■ 数値目標	学校評価：健康・運動に関する満足度評価（生徒・保護者）	80%以上

(5) 地域に開かれた学校、センター的機能の充実

- ① 特別な支援を必要とする児童・生徒が地域でより豊かに生活していくことができるように近隣の特別支援学校3校（青峰学園、羽村特支、あきる野学園）の連携を深める。
- ② 青梅市教育委員会と連携し、特別支援教育への理解啓発と研修会等を計画的に実施する。
- ③ 感染症防止対策を講じ、校内に設置した「のんびりカフェ」を本校児童・生徒の学習や製品の販売の場だけではなく、地域の方々のいこいの場、本校の情報発信の場として活用する。
- ④ SNS、ホームページ等を活用し、魅力的な学校情報の発信を行う。
- ⑤ 地域の就学前施設や小・中学校、都立高校等の要請に基づき、必要に応じて特別支援教育コーディネーターが発達障害等の特別な教育的支援を必要とする児童・生徒を支援する。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、都立学校開放事業、ボランティア講座、障害者本人講座を開催する。今年度の障害者本人講座はオンラインで実施し、卒業生支援の充実や地域

との関わりを深める。

- 数値目標 ホームページ、ツイッターの更新 毎週1回以上更新
- 数値目標 ツイッター・フォロワー 700フォロワー以上
- 数値目標 障害者本人講座オンライン開催 年間5回以上
- 数値目標 学校評価：「のんびりカフェ」・パン・花販売の地域認知率 80%以上

(6) 個人情報の管理

- ① 個人情報安全管理基準に基づき、保有する個人情報の保護について厳正、適正な管理を行う。
- ② 個人情報に係る記録媒体、処理経路、保管方法等の管理状況について、定期的又は随時点検する。
- ③ 服務事故防止月間を活用し、個人情報保護の重要性に関する理解と遵守を徹底し研修を実施する。
- ④ 紙ベースの個人情報の管理について、保管方法の再確認と再度の徹底を図る。
- ⑤ 毎週金曜日を机上及び職員室内整理日とし、クリーンデスクの相互チェックを実施する。

- 数値目標 服務事故件数 0件
- 数値目標 情報セキュリティ研修会 年間3回以上

(7) 学校運営・組織体制

- ① 教職員の新型コロナウイルス感染症予防を徹底した学校運営を推進する。
- ② 事前協議や調整を前提とし、メールやネットワークを活用したオンライン会議を推進する。
- ③ 管理運営規程に基づく文書による意思決定を適切に行い、電子起案による職務の効率化を図る。
- ④ 教職員のビジネスマナー、接遇の意識を高め、丁寧な対応とわかりやすい説明を推進する。
- ⑤ 学校運営連絡協議会による外部評価を実施する。外部評価を学校改善へ反映させる。
- ⑥ SDGsの観点から校内の節水・節電・リサイクル等、学校全体で計画的に取り組む。
- ⑦ 西部学校経営支援センター支所と連携し、センター契約を主とした迅速且つ適正な予算執行に努める。
- ⑧ 給食委託業者との連携の下、安全でおいしい給食、アレルギー対応食、食形態を提供する。
- ⑨ 産業医と連携を図り職場環境改善、職員の健康管理・メンタルヘルス対策を推進する。
- ⑩ 学校における働き方改革推進プランに基づき、業務の効率化を図り、学校閉庁日を長期休業中に設定する。長期休業中や毎週水曜日に定時退庁日を設定し、ライフ・ワーク・バランスの実現に努める。

- 数値目標 メールやネットワーク利用による ICT 会議 各部署 10回以上実施
- 数値目標 起案文書の電子化 80%以上
- 数値目標 年度末の予算執行率 90%以上
- 数値目標 職員検診、人間ドック受診率の向上 100%
- 数値目標 時間外在校等時間の全校平均 20時間以下

(8) 教育相談・広報活動

- ① 就学相談、転学相談、教育相談、学科説明会、入学者選考説明会等の実施に際しては、新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。
- ② 高等部普通科入学を希望する生徒と保護者の事前相談を、1月まで計画的に実施する。また、小学部、中学部は通学区域の教育委員会と連携を図り、就学相談、転学相談、教育相談を実施する。
- ③ 高等部就業技術科入学を希望する生徒と保護者、学校関係者のニーズを満たす学科説明会を実施する。また、出願を希望する生徒と保護者の個別説明を計画的に実施する。
- ④ 地域の学校、教育委員会に本校の教育を周知するため、地域の特別支援学級の担任や教育委員会等を対象とした入学者選考説明会を新型コロナウイルス感染症予防対策を講じ、開催する。

- 数値目標 3密を避けた学科説明会等の参加者 延べ400名以上
- 数値目標 高等部就業技術科出願者数 90名(応募倍率1.5)以上